

2010年2月22日日本テレビ 定例記者会見

《 全文 》

1. 最近の視聴率動向と編成戦略

記者：最近の視聴率動向についてお聞かせ下さい。

細川知正社長：視聴率は先週、四冠王でした。バンクーバー冬季五輪の視聴率の影響もあるので、単純に喜んではいられませんが、良い結果であったと感じています。

舩方勝宏専務：視聴率の四冠王については、先週木曜日の段階で全日とノンブライムタイムの二冠をとれると分析していましたが、バンクーバー五輪の男子フィギュアスケートが16%を超えたこともあり、全体を押し上げる効果がありました。

またレギュラー番組では、日曜日20時からの「世界の果てまでイッテQ！」が22.6%と高い視聴率を獲得しました。この番組は先々週も21.2%と2週連続で番組最高の視聴率をマークしました。2007年2月にスタートした当時から15%近辺と好調でしたが、今回はフジテレビのバンクーバー五輪前半戦ハイライトが9.6%、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」が22.3%と並んだ中で22.6%を獲得したもので、健闘したと感じています。特にスポンサーニーズの高い層や子ども層に多く観て頂けました。家族の皆さんも一緒に観て頂いたことが高い視聴率に結びついたと見ています。

このようにレギュラー番組の視聴率の押し上げが非常に順調で、2009年度で7回目の四冠王が獲得できました。今年度の四冠王はフジテレビが19回、日本テレビが7回で、差がありますが少しずつ近づいています。年度の残り5週という時期に7回目を獲得したのは、04年度以来となります。残り5週という段階での四冠王は、04年度6回、05年度1回、06年度2回、07年度が3回、昨年度は5回でしたので、日本テレビへの視聴者の支持が少しずつ戻ってきたと感じています。

年度の全日視聴率では、フジテレビが8.5%、日本テレビが8.4%と、47週終了時点で0.1ポイントの差があります。最後の最後まで一生懸命頑張って、フジテレビのそばについていく形をとりたいと思っています。

一方、年度のノンプライムタイムは日本テレビ7.3%、フジテレビ7.1%で、先週までの0.1ポイント差が0.2ポイント差に広がりました。このまま何とか逃げ切りたいと考えています。

また日本テレビの全体の視聴率では、09年の年間・年度を通じて、いわゆるスポンサーターゲットが画期的に変わったことが大きな特色です。また年間・年度の四冠王の回数もさることながら、視聴者のターゲットが大幅に変わったことも今年の特色で、良い形になってきていると見ています。特にスポンサーニーズの高い層が全日・プライムタイムと各時間帯で上がっています。

今後の番組で特に注目して頂きたいのが、松本清張生誕100年記念スペシャルドラマです。まず3月16日（火）21時に「霧の旗」、市川海老蔵さんが現代劇で初主演です。そして翌週3月23日（火）21時から「書道教授」を放送します。サスペンスの帝王と呼ばれる船越英一郎さんが主演で、追いつめる刑事役などが圧倒的に多い船越さんが、逆に追いつめられる迫真の演技をしています。

さらに3月27日（土）21時から山田太一ドラマスペシャル「遠回りの雨」を放送します。山田太一さんが日本テレビのために25年ぶりに書き下ろした大人のラブストーリーで、渡辺謙さんがシナリオを読んでぜひともやりたいとおっしゃって頂き、主演をお願いしました。3月はこのように本格的なドラマを集中して放送していきます。

4月の番組改編についてお話しします。土曜日22時に「エンタの神様」を7年間放送してきましたが、これに替わって「嵐にしやがれ」を編成します。嵐の5人によるトーク番組で、4月のゴールデンタイム・プライムタイムでは最大の目玉番組だと考えています。毎回スタジオセットを変え、嵐の5人にはどんなゲストが来るか全く知らせません。人生の達人であるゲストから嵐が“プロの領域”を教えてもらうという設定です。

そして平日19時台にも新番組を編成します。月曜日に「不可思議探偵団」、水曜日に「密室謎解きバラエティ 脱出ゲーム DERO!」を放送します。水曜日の「DERO!」は若い女性社員の企画で、密室に閉じ込められた参加者がクイズに答えながら、3つのステージでいろいろな障害を乗り越えて脱出していくゲーム番組です。子どもたちに人気が出るのではと期待しています。

ゴールデンタイム・プライムタイムでフジテレビに視聴率で差がついているのは、ほとんどが19時台に要因があります。フジテレビは平日のこの時間帯で平均16%台を獲得しています。日本テレビは平均9.3%で、毎日の差がゴールデンタイム・プライムタイムの視聴率全体に影響しています。TBSも19時台の報道番組に替えて「東京フレンドパーク2」などを編成しますので、19時台は4月から各局で大変な闘いになると見えています。

ドラマについては、現在の週2枠放送という方針は変えません。一方で3月の単発ドラマのように、大型ドラマをいくつか編成してきます。

4月から水曜日22時のドラマは松雪泰子さん主演の「Mother」です。これは母性愛がテーマで、特に20代から40代の女性をターゲットに展開していきます。水曜日22時のドラマは、「14才の母」「アイシテルー海容ー」「キイナー不可能犯罪捜査官」など主に女性層を対象としてきました。この路線は視聴者にもかなり定着していると見えています。

土曜日21時のドラマは、藤子不二雄[Ⓐ]さん原作の「怪物くん」を嵐の大野智さん主演で放送します。30代以上の視聴者は漫画やアニメの「怪物くん」をご存知だと思いますので、家族で楽しんで頂けると期待しています。

平日昼間の帯番組では、「おもいっきりDON!」が中山秀征さんの司会に代わって1年経ち、タイトルから「おもいっきり」を取って、「PON!」と「DON!」に変えます。

土曜日23時には「空を見上げて（仮）」を編成します。スタジオ司会者とゲストがいわゆる骨太な生き方、生き様を女性たちにお見せするという内容です。「恋のから騒ぎ」は金曜日に移動します。「空を見上げて（仮）」はエコキャンペーンも担当する大澤弘子プロデューサーが担当し、女性目線で進めていきます。

土日夜のスポーツニュースと報道番組が合体して、「GOing!! Sports & News」となります。「江川×堀尾のSUPERうるぐす」など長年スポーツニュースを担当してきた江川卓さんにはご意見番として参加して頂き、司会にくりいむしちゅーの上田晋也さん、それから日曜日には野球のスペシャルサポーターとしてKAT-TUNの亀梨和也さんも出演します。亀梨さんはリトルリーグで世界大会に出場した経験もあります。

また平日夕方の報道番組「NNN News リアルタイム」に替えて、「news every.」を編成します。キャスターは藤井貴彦アナウンサーと陣内貴美子さんです。藤井アナウンサーはバンクーバー五輪で実況や開会式を担当するなど高い実況力を持っている日本テレビのエースです。これまでスポーツ実況を中心にやってきましたが、ニュースに力を注いでいくことになります。またニュース部分は報道局の丸岡いずみキャスターが担当するほか、「ズームイン！！SUPER」を担当している小熊美香アナウンサーをニュース部門全体のアシスト担当とします。また現場リポーターに鳥羽博剛アナウンサー、スポーツコーナーに佐藤義朗アナウンサーを配置します。この時間帯はフジテレビが約1%リードしています。追いつけるために、現在も好調であるこの番組をリニューアルします。

記者：「世界の果てまでイッテQ！」が最高視聴率を更新していますが、その理由をどのように分析していますか。

舛方専務：私も観ていますが、子どもたちは瞬間的に偽物、本物、作り物と見分けますので、子どもたちから支持される事は重要だと感じます。大人にも観て頂いて、男性や年配の方の視聴率も上がっています。特にイモトアヤコさんのチャレンジ精神は他にはないもので、これが視聴率に結びついていると見ています。

記者：3月に3本スペシャルドラマを編成しますが、その経緯を教えてください。

舛方専務：昨今「火曜サスペンス劇場」を求める視聴者の声は非常に根強いものがあります。こうしたことから、ストレートなドラマを考えていたところに松本清張さんの生誕100年記念ということもあり、取り組むことにしました。「書道教授」はジェームス三木さんが脚本です。

また、山田太一さんのドラマは、山田さんを3年がかりで口説いたもので、山田さんの渾身の作品です。

新しいソフトを開発するために、ドラマを含め年明けからこのように様々な挑戦をしています。

記者：19時台の番組編成を変えるそうですが、なぜ各局がこの時間帯を1、2年で大幅に変えるのでしょうか。

舩方専務：19時のNHKニュースが17%台をとっています。都心部では19時台に自宅へ帰っているサラリーマンはあまり多くないと見られ、その中でNHKのニュースが圧倒的に視聴率をとっている形です。20時台になるとかなりの方が帰宅していますし、食事をされている時間です。このため日本テレビでは20時以降の時間帯に重点を置いて、19時台は費用削減対策なども含めた番組を編成しました。しかしフジテレビは19時台に「ネプリーグ」など重点的に番組を編成しました。50代以上の層が圧倒的にNHKを観る中、その他の年代を全部獲得したのが19時台のフジテレビです。ここを見抜いた戦略はすばらしいと思います。

記者：宮崎宣子アナウンサーの復帰について教えてください。

舩方専務：宮崎アナウンサーは約8か月静養していましたが、今後早朝の番組に戻ります。顎関節症の治療を続けながら、大事をとってゆっくりと現場復帰させます。

2. 営業収入と放送外収入

記者：営業状況を聞かせて下さい。

細川社長：タイムセールスが厳しく、スポットセールスは下げ止まった状況は基本的に変っていません。

1月はスポットセールスが久々に前年同月を割ってしまいましたが、2月はいまのところ前年同月比110%を超え、前年同月を大幅に上回りました。3月も前年同月比100%が視野に入りつつあり、スポットの下げ止まりが本物になってきたと感じています。ただし、これはあくまでも下げ止まっただけで、回復とは異なります。3月末には単発番組がありますし、3月26日からはプロ野球のセ・リーグが開幕します。プロ野球ではCM枠を増やして売りますし、デーゲームも1つあります。昨年に比べるとかなり順調に売れています。2月、3月の状況はそれほど悪くなく、むしろスポットセールスでは良いとさえ言えます。

一方で、4月のタイムセールスが厳しい状態は変わっていません。またスポットセールスも下げ止まったとは言え、2ヶ月先はどうなるか分かりません。

記者：年度決算の見通しを教えてください。

細川社長：中間期までは「大減収増益」と表現していましたが、この第3四半期に限って言えば「減収増益」で、「大」の字がとれた状況です。第4四半期もスポットセールスの出方によりますが、同じような傾向になると見ています。第3四半期の決算を出した段階で通期の見通しは多少の上方修正をしました。

記者：プロ野球中継は、昨年よりもCMの売れ行きが好調ですか。

細川社長：まだはっきりしていません。たまたま単発番組に予算が出てきたかもしれませんし、野球の人气が多少回復してきたのかもしれませんが、レギュラーシーズンの売れ行きを今後見ていかないと、現段階では何とも言えません。

記者：放送外収入はいかがでしょうか。

細川社長：商品事業は引き続き順調です。一方、1月期の映画はそれほど大きな興行収入をあげていません。イベント事業は3月に渋谷で開催する「レンピッカ展」と横浜での「ポンペイ展」を控えています。「ポンペイ展」はすでに1月に福岡で始まり、入場者は極めて順調ですので、横浜にも期待しています。

3. 地デジの進捗状況

記者：地デジの進捗状況について聞かせて下さい。

細川社長：来年の地デジ完全移行に向けていよいよ勝負の年ですので、私どもとしても全力を挙げて普及に努めています。1月末のNHK発表では受信機の普及台数が前年同月比ではプラスですが、12月に比べると増加数が少し減っていますので、さらに告知などに努めていきます。

特に関東エリアではアンテナの設置問題が大きな問題となっていますので、日本テレビも様々なPR活動に努めていく方針です。画面のレターボックス化を含め、やれることは何でもやっていきます。

4. その他

記者：CSも含めて3D放送の可能性についてどう考えていますか。

細川社長：地上波と衛星放送は状況が異なります。地上波はここ1、2年で3Dの放送ができる可能性はあまりないと分析しています。CSやBSなど衛星放送、あるいはゲームソフトなどでは3Dが次の「売り」になっていく可能性があります。

地上波ではまだ難しいでしょうが、ソフトを制作・放送する会社として具体的な研究に入っています。

記者：3D放送を地上波でやる場合の将来的課題は何でしょうか。

細川社長：放送の帯域が難しいのが1つの課題です。それから日本テレビが放送する場合には、免許事業として不安要素を取り除く必要があります。例えば、3D用メガネを長時間使用してテレビを観ると疲労を感じるとも言われています。健康にどのような影響があるのか、またコストや演出上の問題など、解決しなければならないことが他にもあります。このように免許事業である無料の地上波で3Dを放送するには、まだ乗り越えなければいけない課題があります。

記者：民間放送連盟の会長がテレビ朝日の広瀬顧問の続投となりました。感想を聞かせて下さい。

細川社長：民放連が今抱えている最大の問題は、地デジに完全移行していくことで、それを1年半後に控えているわけです。広瀬さんは従来からそれを手がけてこれ、順当なふさわしい人選だと思います。

記者：野球中継の解説陣に立浪和義さんや清水崇行さんなど新しい顔ぶれが加わると発表されましたが、野球中継には何を期待されますか。

細川社長：巨人戦中継にはもちろん今年も大いに期待しています。

舩方専務：今年は昨年よりもデーゲーム中継を増やします。これは野球ファンの開拓を真剣に目指すためです。今までは長年の“野球黄金時代”の財産に支えられてきましたが、新しく少年少女たちをファンに迎え入れて野球を实际やってもらう、野球を観てもらうために、新しい層を開拓していかななくてはいいけ

ないと考えています。デーゲームを増やしたことや、解説陣を替えたのも、子どもたちにもわかりやすい、子どもたちを意識した内容に変えたいという狙いです。

ナイターからデーゲームへシフトしていく事は、巨人だけではなく、各球団でも同じで、プロ野球の流れはデーゲームに移ったと考えています。

(了)